

チャタヌーガ市と遠野の交流

(年度) **1990**

チャタヌーガ市のCSA S校と市内2つの高校が姉妹校を結び、両市高校生の交流がスタート

1999

中学生海外派遣交流事業をスタート。初回は本市中学生8人が参加

2002

「9.11」の影響で1年中断していた交流事業を再開。市民訪問団の派遣も実施。

2007

チャタヌーガ市から外国語指導助手(A.L.T)招へい。

2016

姉妹都市締結を望むチャタヌーガ市長の親書を携え、友好訪問団が来遠

2017年9月15日

姉妹都市締結式が市役所本庁舎で行われ、本市とチャタヌーガ市が姉妹都市に!

2018年5月10日

2019年10月21日までの約1年半、本市からチャタヌーガ市へ職員を初派遣(伊香学主事)



NEWS01



令和元年度「外務大臣表彰」受賞

遠野名誉親善大使
チャタヌーガ姉妹都市協会副会長(遠野担当)

ルイーザ・メシッチさん
=チャタヌーガ市在住=

交流が始まった1990年から、両市の懸け橋となって人と文化を繋いでいるルイーザさん。長年の両市の交流発展に対する功績が称えられ、同表彰を受賞しました。

伝達式が10月7日にチャタヌーガ市で行われ、在ナッシュビル日本国総領事館から表彰状が贈られたほか、同市アンディー・パーク市長から顕彰も受けられました。



未来は無限に広がっています

受賞に大変驚き、とても光栄に思います。この賞は皆さんと一緒に受賞したものと思っています。

初めて遠野を訪れたのは98年。その前から両市の交流に関わっていたので、遠野に着いたときはホームのように感じたことを覚えています。目を閉じると遠野の自然や美しさ、伝統、大切な思い出が浮かびます。遠野名誉親善大使に任命されたことや姉妹都市締結

も忘れられない特別な出来事。そして、遠野の人たちと出会い、友情をつくってこられたことが私の一番素敵な思い出です。

伊香さんは派遣中、両市の新しい関係と重要な繋がりを作りました。人・経済・文化など両市が一緒に向かう未来に、ワクワクせずにいられません。無限に広がる未来へ、両市の特別な関係をさらに深いものにしていきたいです。

NEWS02

夢広がるビール交流

10月7日~10日、チャタヌーガ市で遠野産ホップと両市のビール文化を生かした新たな可能性を探る交流が行われました。遠野醸造TAPROOM、(株)Brew Good、キリンビール(株)の3社4人が訪米。3日間で7カ所の醸造所を訪れ、遠野産ホップを生かした今後の交流に向けアイデアを交換しました。チャタヌーガ市商工会議所と両市姉妹都市協会主催によるイベントでは、チャタヌーガブルーイング社が遠野産ホップIBUKIを使って醸造したビールを紹介。市役所や同会議所などともビールを通じた両市の交流が話し合われ、今後の展開に期待が膨らんでいます。



1・2_遠野からの訪問団がチャタヌーガ市内の醸造所を訪問してビール交流 3_イベントに集まった人たちに遠野のホップ・ビールを紹介



1_小学校の子どもたちに遠野を紹介して交流を深めました 2_派遣期間中は草刈りボランティアなど奉仕活動にも参加しました 3_遠野を訪れる生徒たちの事前研修を担当。両市の中高一貫交流を調整しました 4_チャタヌーガ市の子ども博物館で遠野をPR 5_チャタヌーガ市の地元テレビ番組に出演

~The Last Report of Chattanooga Now! Manabu Iko~

伊香学のチャタヌーガNOW!

伊香学さん(市生涯学習スポーツ課・遠野市教育文化振興財団職員)が1年6カ月にわたる姉妹都市・米国チャタヌーガ市への派遣を終え、帰国しました。本コーナー最終回は、伊香さんのインタビューと両市の交流についてお伝えします!

2018年5月10日から本年10月21日、姉妹都市・米国テネシー州チャタヌーガ市(以下、同市)に派遣され、同市役所多文化室に所属。中高生海外派遣交流事業の調整や同市行政の研修、遠野市のPRなどに携わりました。

着任後は言語や文化の違いなど不安もありましたが、遠野の代表として誇りを持ち、一つでも多くのネットワークを作ろうと心掛けました。徐々に友人や知人が増え、仕事やイベント会場で「遠野に行ってみたい」と声を掛けられることも新たな繋がり、ネットワークの広がりを実感できたことが嬉しかったです。また、生徒派遣や市民訪問を現地で調整できたことで、より充実した姉妹都市交流にすることができました。同市での遠野の認知度も高まり、両市のより強い信頼関係を築くことができたと感じています。

同市派遣中、アメリカ南部のおもてなし精神と言われるように、心が温かく、親切な人たちにたくさん出会いました。約30年の交流は、着実に両市の友好関係を太く、強くしています。教育や文化に加えて、幅広い交流機会が広がっていく未来を感じています。1年半の貴重な経験を生かして、同市との友好を市民の皆さんと一緒に楽しみ、盛り上げていけるよう取り組んでいきたいです。



伊香さんとチャタヌーガ市アンディー・パーク市長

※今月号の「遠野文化研究センターだより」「遠野で起業に挑戦中!」のコーナーは紙面の都合で休載します。